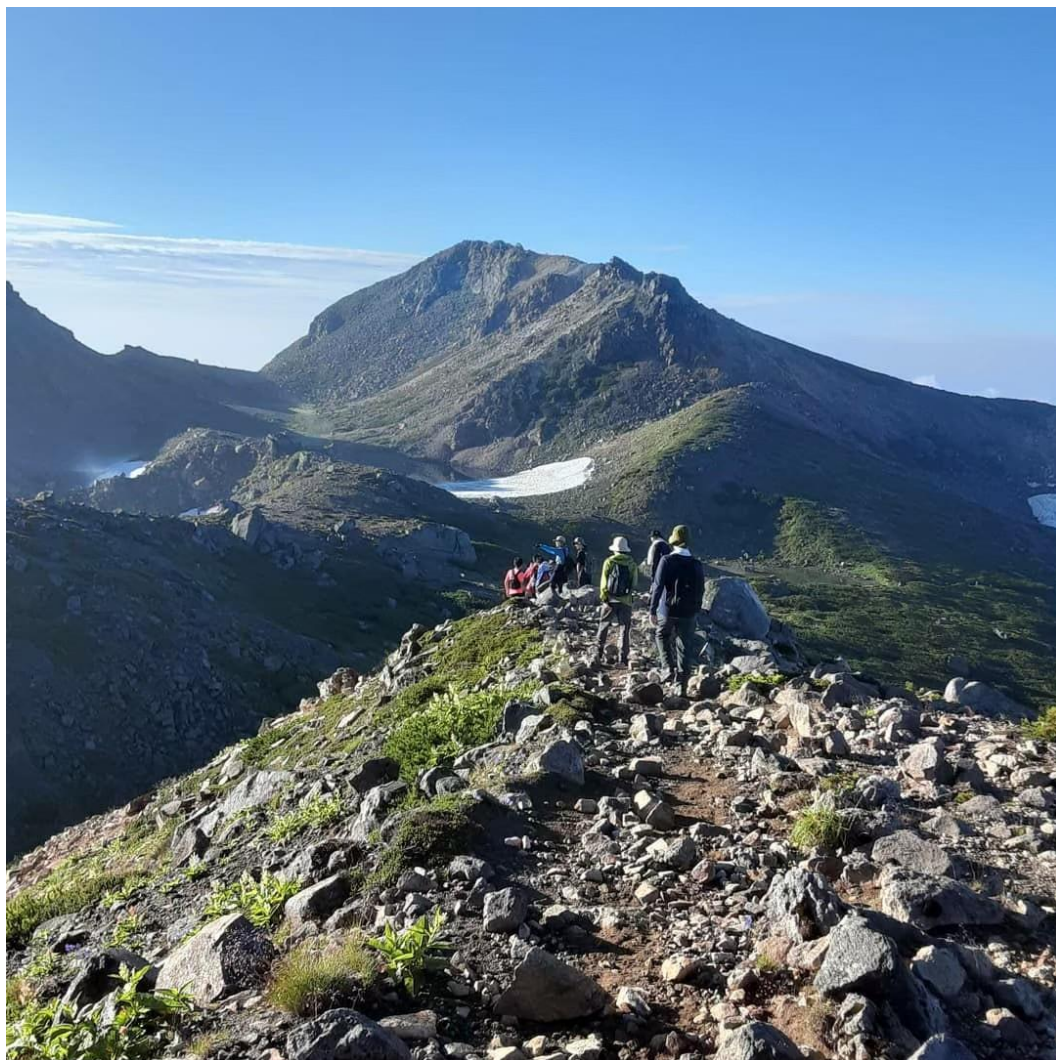


灘校ワンダーフォーゲル部 部誌

2022



(2021 年度 夏合宿 白山にて)

目次

部長挨拶	p.2
ワンダーフォーゲル部の年間行事	p.3
ワングルの装備説明	p.10
紀行文集	p.13
・ 夏合宿 ～白山～	p.13
・ 冬合宿 ～御在所岳～	p.20
・ 春合宿 ～鶴見岳～	p.24
あとがき	p.28

部長挨拶

こんにちは。灘校ワンダーフォーゲル部部長の村中です。

本日は本校の文化祭にお越しいただき、そしてこのワンゲルのブースで部誌を手にとってくださり、誠にありがとうございます。

ワンダーフォーゲルとはドイツ語で「渡り鳥」という意味で、この部活では渡り鳥のように自由に豊かな自然と触れ合い、楽しもうという理念のもと活動しています。

創部以来、登山およびキャンプを中心とした野外活動を一貫して行っております。運動部の一つと位置付けられてはいますが、本校の運動部では唯一対外試合を行わない部活であり、レギュラーや補欠といった競争の類とは一切無縁です。

そのため、数ある灘校の部活の中でも、特にのびのびとした雰囲気で活動を行うことができ、ワンダーフォーゲル部の魅力の一つとなっています。

そんなワンダーフォーゲル部では通常なら、年3回のキャンプ、そして合宿があります。キャンプはみんなでテントを張り、食事を作ったりしてとても楽しく、学年を超えた部員同士の交流も深まる行事です。また、部誌本編で紹介しています通り、年3回の合宿の行程は、部員が各自の案を持って集まり、プレゼンと投票によって決めています。部員が主体性を持って部活に関わり、費用と安全性の許す限り、どんな山にだって登れるのです。

ここでは、そんなワンダーフォーゲル部の活動を、1年間を振り返る形でご紹介いたします。

昨今の新型コロナウイルスの流行により中止や変更になったイベントは少なくなかったのですが、ワンゲル部の普段の活動や登山、キャンプの魅力に興味を持っていたければ幸いです。

Welcome to *Nada WanderVogel Klub (NWVK)*!!

さあ、素晴らしい山の世界へようこそ！！

灘校ワンダーフォーゲル部部長 村中 達

年間行事紹介

4 月	部員勧誘・オープンワンデリング(於：六甲山)
5 月	文化祭
6 月	NEO 仁川キャンプ (2021 年度：中止)
7 月	本庄橋キャンプ (2021 年度：日帰り)
7～8 月	夏合宿(2021 年度：白山)
9 月	高 2 引退・世代交代
10 月	追い出し会
11 月	市ヶ原キャンプ (2021 年度：日帰り)
12 月	冬合宿(2021 年度：御在所岳)
1 月	六甲全山縦走 (2021 年度：両中止)
2 月	駅伝大会
3 月	春合宿(2021 年度：鶴見岳)

ワンダーフォーゲル部では一年間で以上のような活動を行っています。

以降の頁では各々のイベントについて行程や紀行文などが書かれていますが、そこに載っていないイベントの内容を紹介していきます。

昨年度は行えなかったものも例年の様子を紹介していきます。

- ・ 部員勧誘：1 学期始業式の後の新入生オリエンテーションにて、部の勧誘を行います。
ワンゲルは地味なクラブで、部室の場所も研修館のすみっこのため、一層頑張らなくてははいけません。近年では「ワンゲルマン」という寸劇で注目を集めています。(今年は時間の関係でできませんでしたが)
- ・ 文化祭：山の魅力を伝えることをテーマに毎年出展しています。
- ・ 高 2 引退：体育祭後に、高 2 が正式に引退し、投票で次期部長と会計が決定、その場で引き継がれます。
- ・ OB 会：ワンゲルの OB や顧問の先生方とお話できる貴重な機会です。
- ・ 駅伝大会：灘校主催の駅伝大会に毎年出場しています。普段から住吉川の遊歩道で走っているので、他の部活にワンゲルの強さを見せることができます。

オープンワンデリング…4月下旬

入部を検討している新入生のために、部の雰囲気を知ってもらう目的で設けられるゆるい新歓ハイキングです。最後まで歩き切れば、そのまま有馬温泉に入ってから帰ることができます。

【コース】

阪急芦屋川駅→(1:20)→風吹岩→(1:30)→本庄橋跡→(0:50)→六甲最高峰[931m]→(1:20)→有馬温泉

コースタイム 5:00

NEO仁川キャンプ…6月中旬

新入部員たちは、ここでワンゲルのノウハウを学び、先輩と親睦を深めます。大昔は名前の通り仁川で行っていたのですが、最近は市ヶ原という場所でキャンプをします。暑すぎず寒すぎないちょうど良い時期ですが、雨に降られやすい季節でもあります。

【コース】

1日目 新神戸駅→(0:40)→布引貯水池→(0:20)→市ヶ原(泊)

コースタイム 1:00

2日目 市ヶ原→(1:00)→再度公園→(1:55)→元町駅

コースタイム 2:55

【みどころ】

布引の滝…新神戸駅の北側にかかる4つの滝の総称で、最も高い雄滝は43mにもなります。日本の滝100選にも選ばれています。

再度公園…部員の親睦を深めるため、フリスビーなどで遊ぶのが慣例です。



本庄橋キャンプ…7月下旬

夏合宿の直前の予行練習という位置づけですが、非常に暑く、また夕立に見舞われやすいため、年間で最も過酷な行事の一つと言えます。

【コース】

1日目 灘校→(0:40)→白鶴美術館前→(0:45)→石切登山口→(0:05)→五助堰堤→(1:10)→本庄橋(泊)

コースタイム 2:40

2日目 本庄橋→(0:50)→蛇谷北山[840m]→(0:10)→石宝殿→(0:50)→船坂峠→(0:30)→太平山[681m]→(1:10)→塩尾寺→(0:40)→宝塚駅

コースタイム 4:10

【みどころ】

蛇谷北山

芦屋市最高峰。山頂付近は笹に覆われています。

塩尾寺

室町時代建立の浄土宗寺院。えんぺいじ、と読みます。

市ヶ原キャンプ…11月中旬

このキャンプでは寒さをいかに防ぐかが重要です。特に早朝は冷えるので、テントに潜ってダラダラしたい気持ちを律して仕事をしなければなりません。

【コース】

1日目 新神戸→(0:40)→布引貯水池→(0:20)→市ヶ原(泊)

コースタイム 1:00

2日目 市ヶ原→(1:45)→新穂高→(0:30)→穂高湖→(0:50)→丁字ヶ辻→(0:15)→記念碑台→(1:00)→寒天橋→(1:00)→灘校

コースタイム 5:20

【みどころ】

記念碑台

←アーサー・ヘスケス・グルーム像。



六甲全山縦走

六甲全山縦走は、毎年1月末に行っている日帰り登山です。JR 塩屋駅(神戸市須磨区)からJR 宝塚駅までの56kmを15時間以上かけて1日で歩き通します。名前の通り、六甲山地を端から端まで縦走します。ワングルの行事の中では一番過酷と言ってもいいほどの行事です。体力面、精神面での過酷さから途中で離脱を余儀なくされる者が出ることも珍しくありません。

2022年は行程を市ケ原で切り、2日に分けての開催となったのですが、後半のみ「まん防」の影響で中止となり、結局完走はできていません。

【行程詳細】

(表記タイムは2020年度のものです。)



1 須磨アルプス

7:00 塩屋駅～7:37 須磨浦山上遊園～7:45 旗振山～8:25 梅尾山^{つがお}～8:55 馬の背～
9:35 禅昌寺～10:33 鷹取山

・JR 塩屋駅（7：00）

本来は山陽須磨浦公園駅を始点としますが、この部では毎年ここから始まります。灘校よりかなり西側にあるので、朝7時に集合するのがなかなか大変です。

・須磨山上遊園（7：40 ごろ）

ケーブルがありますが、冬の朝早い時間帯なので動いていません。しばらく歩いてきて暑くなってくるので、このあたりでいつも上着を脱ぎます。

・梶尾山（8：30 ごろ）

須磨の海を一望できる場所です。なお須磨山上遊園からここまでに400階段という鬼のように長い階段があります。前回数えてみたら290段くらいだった気がしますが、あまりのしんどさにより数え間違えているかもしれません。間違えない自信がある方は数えてみましょう。

・須磨アルプス(→)

ごつごつとした岩場なので、日本アルプスの稜線を歩くような気分をちょっとだけ味わえます。十数分で終わります。



・禅昌寺（9：40 ごろ）

東山の分岐で妙法寺に行く道を選ばず、こちらを通るのがこの部の慣例です。市街地は迷ったり集団行動によって迷惑をかけたりすることがあるためだそう。しかしこの道の途中は工事現場になっていて、もうこの道自体がないものとして扱われているのでは…？と疑問に思っている。

2 菊水山

10:33 鷹取山～11:28 鶴越駅～12:36 菊水山～13:11 天王吊橋～13:39 鍋蓋山～
14:15 大龍寺～14:38 市ヶ原

・鵜越（11：30 ごろ）

一ノ谷の戦いで源義経が馬で駆け下りたとされる場所です。神戸電鉄の駅があるので体調が悪くなったら帰れます。ここも差し入れポイントの一つ。

・菊水山（12：40 ごろ）

縦走路では最も急な登りです。早く山頂に着こうとして急いでしまいがちですが、ここはゆっくりと登って体力を温存するのが大切です。このあたりから足に疲労がたまってきます。

3 摩耶山・記念碑台

14:38 市ヶ原～16:09 **摩耶山**～17:28 記念碑台

・市ヶ原（14：30 ごろ）

ここでこの部は春秋2回のキャンプを行います。30分ほど道を降りていけば新神戸駅に着くのでリタイアも可能です。ここがちょうど中間地点でしょうか。2022年度、前半はここで終わりました。

・摩耶山掬星台（16：00 ごろ）

市ヶ原から摩耶山までの登りはそれほど急ではないですが、かなり長い時間登り切るのは大変です。摩耶山から見える神戸の夜景は日本三大夜景の一つだそうです。ケーブルで楽々ここまでたどり着いたカップルを見た日には9時間もかけて歩いてきた我々男子校生は発狂します()。ちなみにこのあたりで急に寒くなるので注意が必要です。

・記念碑台（17：45 ごろ）

このあたりで日が落ちて真っ暗になります。リタイアするのならここが最後です。すでにかかなり疲れていますが、先輩からの差し入れを食べたりして頑張ります。

4 六甲最高峰・宝塚

17:28 記念碑台～18:09 六甲ガーデンテラス～18:52 六甲最高峰～21:29 塩尾寺～
21:57 宝塚

・六甲ガーデンテラス（18：30ごろ）

とても綺麗な夜景が見られます。疲れて荒み切った心にはほぼ唯一の癒しです。

→ガーデンテラスでは六甲枝垂れのライトアップが見られることもあります。

・六甲山山頂（19：30ごろ）

一番高い地点です。疲れに加えて寒さも襲ってきて辛いです。相変わらず夜景は見えるものの、そろそろ飽きてきます。

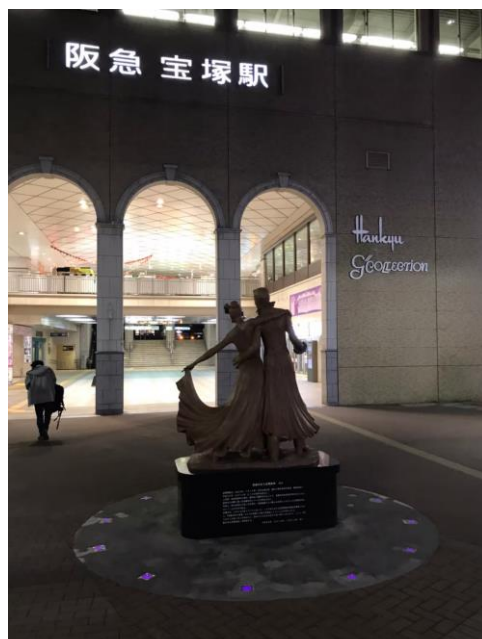


・塩尾寺（22：20ごろ）

山頂から延々と山道を下り続け、ここまでくればゴールはもうすぐです。しかしここからは最大の難関、めちゃくちゃ急なコンクリの下り坂が待っています。疲れた足を徹底的にいじめてくるので最後まで気を抜かずに行きましょう。

・宝塚駅（23：00ごろ）

ゴール。よく頑張りました。電車で寝過ごして終電を逃さないよう気を付けて帰りましょう。



ワングルの装備紹介

ワングル部の山行では、部員個人が持つ個人装備と、全員で荷物を分担する共同装備の2つの種類の装備を持ちます。「山の道具展」の展示と併せてご覧下さい。

個人装備

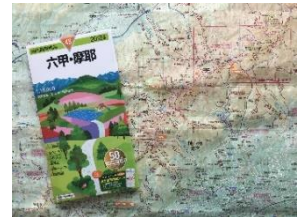
〈登山靴〉

底が厚く、グリップが利く硬い靴。凸凹の地面でも圧力を分散してくれます。防水スプレーをかけておくのがおすすめ。オールシーズンに対応した重登山靴を主に使用します。



〈地図・コンパス〉

登山地図は旺文社の「山と高原地図」を主に使用します。最近では、GPS機能のあるスマホアプリのものを使用する人もいます。ただ充電の減りが激しいためモバイルバッテリー必須。



〈靴下〉

圧力を分散する分厚い靴下です。重ねて履くことでさらに足への負担を軽減できます。あんまり臭くならない。

〈ザック〉

登山用の大きなリュックサック。ワングルでは50～70Lの大型のものを使用します。新入部員は、体への負担が少ない背負い方やパッキングのやり方のレクチャーを受けます。



〈ザックカバー〉

雨天時にザックの外に掛けるカバーです。目立つよう明るい色であることが多いです。

〈雨具〉

上下が分かれたレインコート。高価ですが防水性能は抜群です。露営の際は折り畳み傘を重宝します。防寒具としても使えます。

〈ポリタンク〉

水を入れるプラスチックの容器。個人用の2Lのものと、共同装備の10Lのものがあります。長いチューブがついており、取り出さずに吸って水分補給できるものもあります。

〈シュラフ〉

ドイツ語で寝袋。対応する温度によって厚さが異なります。ワ
ンゲルでは春～秋用の薄いものを使っています。朝たたむのに
苦戦します。



〈ロールマット〉

テントとシュラフの間に敷く厚いマット。これがないと寝る時に小
石が食いこんで痛い。



〈食器・武器〉

武器とは箸・スプーン・ナイフなどのセットのこと。

〈ヘッドライト〉

小型ながら明るさは想像以上。ただ電池の減りが早
いことが多いので、予備の電池を持っておくべき。



〈その他の個人装備〉

防寒具,帽子,サングラス,日焼け止め,軍手,タオル,
靴紐予備,時計,ナイフ,ライター,ロープ,新聞紙,袋,ロールペーパー,非常食,嗜好品(飴や
氷砂糖など),コップ,洗面用具,うちわ,サンダル,(裁縫道具),(ポケット植物図鑑),(呼び
子)

共同装備

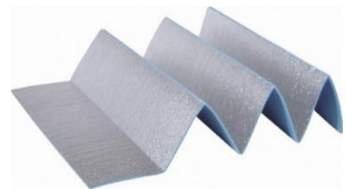
〈テント〉

4人用のものを主に使用。ペグと呼ばれる釘で地面と
固定します。雨や濡れると畳んだ時ぐっと重くなります。



〈テントマット〉

テントの中に敷くものと、炊事場に敷くもの(通称:食テ
ン)とがあります。



〈ガスコン&カートリッジ〉

片手で持てるサイズのコンロと小さなガスボンベ。カートリ
ッジをガスコンと繋ぎ、着火してネジでガスの量を調整します。
(ガスコンとカートリッジ、中1の時はどっちがどっちか分かっ
てませんでした...)



〈コッヘル〉

アルミやステンレスのキャンプ用の鍋。米炊きもこれを使いますが、気圧の低い高山で上手くお米を炊くのは至難の業です。マトリョーシカ人形のように重ねて運びます。



〈その他の共同装備〉

包丁,まな板セット,オタマ・シャモジ,食料,調味料,行動食,ランタン,救急用品,携帯ラジオ,天気図用紙,カメラ,(トランシーバー),(掃除針),(シュリング),(風防),(ツェルト),(カラビナ)(マッシュマロ)



紀行文集

ここでは、年3回の合宿の様子を部員が綴った紀行文を紹介します。前掲の行事紹介と共に山男たちの活動報告をお楽しみください。

※2021年度の夏合宿は新型コロナウイルスの影響を受けて2泊3日に短縮されました。

夏合宿（白山）

【見どころ】

白山は、富山県、石川県、富山県、岐阜県の四県にまたがる標高2702mの山で、日本三百名山の一つに数えられている。山頂部には万年雪が残り、多くの高山植物と広大なブナの原生林、そこに生息する野生動物、更に付近には温泉があるなど、多くの魅力を持っている。また、信仰の山でもあり、実際私達が山頂で御来光を見た時、近くにいた方々が万歳三唱していた。

【行程詳細】

一日目

新大阪 9:45=(貸切バス 4 時間)=旅館かのや

【コースタイム 0:00】

二日目

旅館かのや 7:30=(貸切バス 1 時間)=市ノ瀬=(シャトルバス 25 分)=別当出合～(1:40)～別当坂分岐～(1:20)～殿ヶ池避難小屋～(1:50)～白山室堂（観光新道）

【コースタイム 4:50】

三日目

白山室堂 4:00～(0:40)～御前峰～(1:00)～大汝峰～(0:50)～白山室堂～(1:50)～甚之助避難小屋～(1:30)～別当出合=(シャトルバス 25 分)=市ノ瀬=(貸切バス 30 分)=白峰温泉総湯=(貸切バス 4 時間)=新大阪駅（砂防新道・エコーライン）

【コースタイム 5:50(空荷 2:30)】

【1日目 7月29日】

合宿の始まりは新大阪駅、いつもなら朝の7時とか8時に集合するのだが、今回は9時45分集合と結構遅めに集合することになっていた。私の到着した9時頃には誰もいなかったが、すぐに人が増えていき、集合時刻には全員集合することができた。そしてその間、高3のOBの先輩方が来てくださり、差し入れに飴やグミやゼリー飲料等を頂いた。特に、ゼリー飲料は地味に高価なものなのでありがたかった。とはいえ、合宿期間の短縮のせいで歩く期間は2日しかなく、その分行動食を食べる機会も少ないのに、色々もらってしまったため、私は食べきれずにまだ家に保存している() それは置いて、無事に集合した我々は貸し切りバスに乗り込み、出発する。目的地は本日の宿、旅館かのである。ここで、なぜいきなりバスで宿まで向かうのか疑問に思った人もいるだろうが、それは本日の行程がバスに乗って、宿に行く、それだけだからである。集合時刻が遅めなのもそれが理由だ。そんなわけで、気楽にバスに揺られること約2時間、我々はサービスエリアで昼休憩をとった。私は柿の葉寿司を食べ、そしてまた出発する。誰かを置いていくなんてことはなく、そこから2時間ほどで無事に宿についた。宿につくと、コロナ対策として部屋移動を禁じられたため、我々は、夕食までの時間、風呂に入るとき



き以外は各自の部屋で時間をつぶすこととなった。とはいえスマホとは便利なもので、私は同学年の部員たちとオンラインでできるゲームをしたりしていた。そして、夕食の時間になり食堂に集合する。夕食は鮭やハンバーグなどの料理が出され、オリンピックの試合を見たりしつつおいしく頂いた。夕食を食べ終わるとまた部屋で時間をつぶし、就寝時刻になったら寝るのみである。その日の就寝時刻は私がいつも寝る時間より早く、しかもまともに動いていないのでなかなか眠れないかと思ったが、次の日への期待もあってか、意外にもよく眠ることができた。

【2日目 7月30日】

民宿かのやで朝ごはんを頂いて、貸切バスで市ノ瀬、シャトルバスでそこから別当出合まで登りました。市ノ瀬のバス乗り場には蜂がたくさんいました。シャトルバスに乗るのにはチケットを買わなければいけないので買いに行きました。(筆者は会計です。)そこで、片道分を買おうとすると、帰りのチケットを上(別当出合)で買う場合、自販機でしか買えず、小銭のお釣りが出ないと言われたので往復分をまとめて買うことにしました。さて、別当出合に着くと、いよいよ合宿の歩く行程がスタートします。まずはトイレに行ったりパッキングをし直したりして、人数が多いのでA班,B班に分かれて出発しました。筆者はB



班なので、A班の後に少し時間を空けて歩き始めました。別当出合で、御前峰を向いて左側に行くと観光新道、右側だと砂防新道です。白山登山客の多くは登りに砂防新道、下りに観光新道を使うらしいですが、我々は逆に登りに観光新道、下りに砂防新道を使いました。観光新道は観光新道というだけあって、眺めが素晴らしかったです。また、坂も歩いても疲れない、とても良い山だと感じました。ガイドブックなどでは別当坂分岐からの尾根道の眺めが良いと書かれていましたが、別当出合から別当坂分岐までの道も、最初の方こそ林で展望が悪かったですが、半分も歩かない内に別山の眺めを楽しむようになりました。そして、別当坂分岐に到着すると、上から降りてきたO元教頭(ワングル部OB, ワングル部元顧問)と出会いました。我々が2泊目に泊まる予定の白山室堂ビジターセンターに泊まって、御来光を見てから降りてこられたようです。去年の夏合宿では1日目に合流して行程をともにしたので今年もそうだと思っていたのですが、違ったようです。O先生に別れを告げて、別当坂分岐から歩き出します。確かこのあたりかも少し前ぐらいからトンボがたくさん飛んでいました。別当坂分岐からの尾根道はそこまで急という訳では無かったのですが、殿ヶ池避難小屋までが想像していたよりも長く、少し辛さを感じました。この辺りは花がたくさん咲いていました。花も眺めもあ

って坂もきつくないとは素晴らしい山ですね。そこからは特に変化が無く、引き続き花と眺めを楽しみながら歩いていたら着いた、という感じです。最後の15分程のところで雨が降り始めて少し心配しましたが、すぐに止んでよかったです。白山室堂ビジターセンターに着いたので、宿泊代の支払いを済ませて部屋に行きました。ここで2日目の行程は終了なのですが、3日目の朝早くに御来光を見に行くときに晴れるかが分からないので今日



日のうちに有志で登らないか、ということになり、霧が晴れるのを待って、(結局登り始める時もそこまで晴れてはいませんでした、)登りました。空荷だと調子に乗って急いで登ったのですぐにバテてしまいましたが、とりあえず着いて見渡してみると、周りの山々の眺めや真っ青な池を見られました。そのあとすぐに霧がかかってきてしまったので、急いで登った甲斐がありました。後から来た部長に、「晴れてた？」と聞かれ、「晴れてた」と返すと、「写真取った？」と聞かれました。取るのを忘れていたので怒られました。それからまた降りて夕食を食べて、3時起ききの3日目に備えて寝ました。



【3日目 7月31日】

朝3時半に起床。一度夜中に目が覚めたが快眠できたと思う。寝坊している人がいないか確認しながら出発の準備。昨晚に準備はほとんど済ませていたので歯磨きや水の確保などだけだったが思ったより時間がなかった。暗い中点呼を取って出発。不安は部員の体力と天候。天候は昨日からもガスっており(曇り)出発時もそうだった。しかしガスは案外すぐ消えるもので、タイミングよく頂上では晴れることを祈りながら歩いていた。後半は結構険しかった。さあ御前峰頂上到着！到着した時は曇っていたが休憩をだいぶ



長めに取った。すると水平線から光が！今年が最後ということもあり感極まった。雲が風に動かされたまに見えるご来光にいちいち興奮しているともうそろそろ出発に。さあ大汝峰に向け出発、日も出てきて晴れて来ました。他の登山客は御前峰までだったのか、全く人がおらず気が楽でした(笑)。若干の岩場という一番楽しい道だが慢心しない様に滑らないように声かけ。標高も高く残雪があり、凍った池もあり涼しさ(寒さ)を再実感。夏合宿はこうでないとはいけません。下界の暑さから山に逃げ込むのが夏合宿ですから(笑)。お池巡りを楽しみながら歩いていくと、目の前の道に残雪が！(もはや雪というより巨大な氷のようでした。)一応もう一度地図を確認しますがしっかり道を氷が遮っていました。一応合宿前に残雪は確認していましたが、アイゼンが必要なほどの情報は見つからず大丈夫かと思っていたのです。ここから雪の上を歩くので気をつけるように大声で注意したあと、誰かが脇道を発見...w少し恥を描きましたw。まあ雪の上を歩かずに済むのは助かります。その脇道を登っていきました。さお池巡りも終わり大汝峰のふもとまでできました。ふもと時点では緩やかな道に見えていました。そうふもとまでは...。登っていくと崖のような岩場が、手も使う様に呼びかけて、一番安全そうなルートを探しながら先頭を歩きました。岩場を登り終えると今度は細い道。少しふらついたりして

道を踏み外したら転がり落ちていきそうでした。そんな思ったよりも厳しかった大汝峰までの道も終え、頂上着！大汝峰の頂上到着にもガスっていましたが、休憩時間をとっているうちに晴れていきました。高2の学年写真、全体の集合写真をとり休憩この時点でもまだ7時とかで日ごろ自分がどれだけ不健康な生活を送っていたのかが身に染みましたw。さて下山、登って岩場をまた降りあとは普通の山道でした。日も照って来て暑くなり服を脱ぎながら歩いているうちに、白山室堂に無事帰宅。内田先生が出迎えてくれました。さて今から朝食です。最早昼食では？と誰しもが思っていたでしょう。メニューは白米、納豆、魚、味噌汁といった和風の朝食でした。黙食に寂しさを覚えながらも食べ終え、とうとう下界へが下山です。3日間あっという間だったなどこれまでの5年間に思いを馳せました。皆が朝食を



食べ終えトイレなども済ましザックを持って室堂の建物前に集合。今回の合宿では合宿前の登山で注意したおかげか、皆時間通り動いてくれて本当に感動し感謝でした。ここからは高1が先頭に立ち歩きます。僕ももうお役御免ってことですね。思えばこんなに後ろを歩くのは初めてかもしれません。78回生が異質に多いだけで、77、76は大体2〜5人ほどでしかも74も多かったののであまり後ろを歩いているという実感もなく78が入って来た時は僕も高1で次の最高学年として先頭にいたからです。こう後ろを歩いていることにしみじみとしていたら、片田先生から電話が。何やら違う団体を僕らと勘違いした様で安部が呼びにいつてくれたとか。僕らは正しい道を言っていると連絡し一件落着。何事もなくよかったです。先頭の高1が頼もしく安心して歩いているうちにもう別当出合まで一瞬でした。(最後の橋が大人数で渡ったせいか左右に激しく揺れたのは面白かったです。もちろんわざと揺らしていたわけではありませんよ。笑)。終盤はb班もa班に追いついて来てab 結合して歩きました。シャトルバスで市ノ瀬まで降り貸切バスに乗り込みました。歩く行程を全て終えたことに安心感と寂しさを感じていましたがつぎは温泉、楽しみです。バスで30分ほどで温泉前に到着。温泉と昼食の時間として時間をもって自由行動。僕はまず温泉から。疲れた体には温泉しかありません。温泉後、



ごはんを食べようと思ったら時間が飯屋が一件のみそしてそこにはほかの部員の行列が、、、待っているうちに時間が来てしまい昼食は断念。長風呂と時間の見積もりが甘かったことを反省しました。バスに乗り込んで帰宅。途中で反省会もしましたがバスがうるさすぎましたね。反省会を反省する羽目になりました。



冬合宿(御在所岳)

【見どころ】

まず、冬合宿の行先は御在所岳と書かれているが実際は違う(!?) 確かに御在所岳の近くではあるのだが、実際に登ったのは倶留尊山、亀山、鎧岳、兜岳、国見山、住塚山の六つである。なので、この六つの山を紹介する。まず倶留尊山、この山は標高1037mで日本三百名山に選ばれている。周囲の山と比べると標高が高いことから、山頂部は展望がよい。次に亀山、この山は山頂付近が一面ススキでとてもいい景色である。しかし、風が強いので、12月中旬当時は非常に寒かった。そして鎧岳、兜岳はどちらもごつごつしており、傾斜が大きく、登りづらい。また国見山、住塚山はどちらも1000mを超えており、展望がよい。はずなのだが冬合宿の時にはものすごく曇っており、その景色がほとんど見られなかった……

【行程詳細】

一日目

大阪上本町駅 9:31発=(近鉄大阪線急行)=名張駅10:39着=(三重観光バス(チャーター便) 0:45)=中太郎生～(1:10)～西浦峠～(0:50)～倶留尊山～(0:20)～二本ボソ～(0:15)～亀山峠～(0:15)～亀山～(0:10)～亀山峠～(0:20)～国立曽爾青少年自然の家

【コースタイム 3:20】

二日目

宿8:00発～(1:00)～太良路(バス停)～(0:10)～新宅本店(バス停)～(1:20)～鎧岳～(0:20)～峰坂峠～(0:40)～兜岳～(0:30)～目無橋～(0:30)～民宿2・7(ツーセブン)

【コースタイム 4:30】

三日目

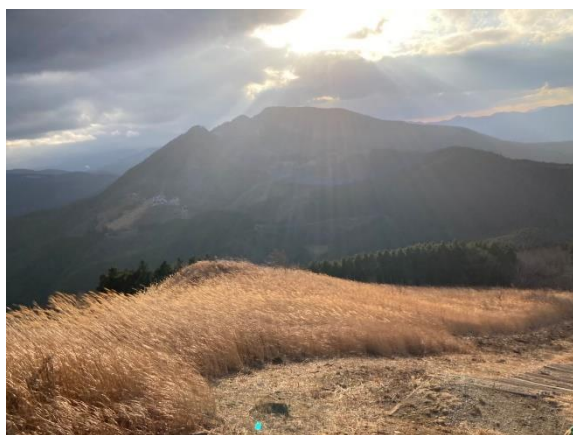
宿～(0:30)～目無橋～(1:30)～クマタワ～(1:00)～国見岳～(0:45)～住塚山～(1:30)～小長尾橋(バス停)=(三重観光バス(チャーター便) 0:45)=名張駅

【コースタイム 5:15】

【1日目 12月20日】

12月20日、今年も冬合宿が始まりました。集合時刻は9時10分、ワングル部員は優秀なので、もちろん集合時刻までに全員が集合する…ように思われましたが、少し遅れて元部長の先輩が血を流しながらやってきます。来る途中でこけて怪我をしたそうなのですが、服も破れていて割と惨事です。合宿の途中で怪我をするならまだしも集合前に怪我をして、しかもそのまま来るというのは予想外でした() ではこのまま電車に乗り込んで出発、というわけもなく救急箱に入っていたもので処置を施してから出発となりました。(破れた服はどうしようもありませんでしたが) 幸い、余裕をもってスケジュールを立てていたので、予定していた電車に乗ることができました。1時間ほど電車に揺られ、そこからバスに乗り換えて中太郎生(なかつたろうせい)という名の微妙に読みづらいバス停を目指します。中太郎生につくとそこから登山開始です。大体2時間ほどかかって倶留尊山に登ります。途中西浦峠という場所があるのですが標識がボロボロで「西」

の文字が半分欠けていました() それはさておき、無事全員が倶留尊山に登頂しました。実はこの山、合宿の一番初めに登る山にして、今回の合宿の最高峰です。そんな山に登り切ったことを喜びつつ、次は亀山を目指します。亀山付近まで行くとあたり一面がススキで覆われており、素晴らしい景色となっていました。しかし、そこから山頂を目指して歩いていると強風に見舞われます。特に山頂は遮るものが何もないため非常に寒かったです… 亀山に登り切れば、山頂から見える範囲にある宿まで向かいます。この日の宿は国立曽爾青少年自然の家というところで、その名の通り国立で、安く泊まれるのですが、手続きが多く、ルールも厳しかったです。食事は給食みたいな感じで面白かったのですが。何はともあれ、1日目の行程はこれで終わり。寝る前に都会のほぼ何も映らない星空とは違う、綺麗な星空を見て、2日目、3日目に備えて就寝します。



【2日目 12月21日】

2日目です。この3日間の冬合宿では、2日目が1番しんどかった、という人も多いのではないのでしょうか。2日目は、朝食を食べたら朝8:00に青少年自然の家を出発し、鎧岳(標高894m)、続いて兜岳(標高920m)に登りました。どちらも奇峰で、鎧岳の登っても登っても終わりが見えない林道や、兜岳の1歩でも踏み外したら危ないような荒々しい岩肌に皆苦しみましたが、天気も非常に良く、



山頂ではどちらもそれを忘れるほどの達成感や絶景が待っていました。しかし、その後の下りも大変です。傾斜の大きい岩肌がなかなかハードでした。ロープ等を使って何とか皆無事降りきりましたが、雪が溶けている影響で凄く滑りやすいので、慎重に行かなければなりません。少し滑ってしまった部員もいましたね。(皆無事ですょ) そういうのも含めて、凄く楽しい登山だったと思います。2日目の宿は民宿2・7でした。多くの人が楽しみにしていたであろう露天風呂(2日目のモチベと言っても過言ではない)は、なぜか分かりませんが使えませんでした。非常に残念でしたが、小浴場でも疲れをとるには十分です。早く到着したことから自由時間も長く、同じ部のメンバーと楽しい時間を過ごせたはずです。夕食も豪華で、白米をおかわりしている部員も沢山いました。夜は1日目と同じく22:00消灯でした。では、次は3日目です。



【3日目 12月22日】

3日目は、標高 1016 メートルの国見山と住塚山に登りました。最初の方は、傾斜が緩い森の中を歩きましたが、最後の方は傾斜がキツイ坂を登ったり降りたりを繰り返して

登頂しました。途中からとてもガスっていて(曇っていて)登頂してもほとんど何も見えなかったですが、1000メートル越えただけあって登りがいいがありました。そのあと、歩いて 30 分ほどのところにある屏風岩公苑まで下り、バスが来るまでの間、屏風岩近くの広場で時間を潰し、バスに乗り、合宿の全行程は終了です。お疲れ様でした。



春合宿(鶴見岳)

【見どころ】

鶴見岳は大分県別府市にある、標高1375mの山で、日本三百名山の一つに数えられる。山頂からは、別府の街が一望できるほか、日本二百名山の一つである由布岳なども眺めることができる。そんな鶴見岳だが、毎年4月に「べっふ鶴見岳一気登山」というイベントを行っている。このイベントは海拔0mの海岸から海拔1375mの頂上までを歩き切る、或いは走り切るというイベントである。この時に使用されるコースには至る所に看板が設置されており道がわかりやすく(結局何度か間違えてしまったが)、更に途中で幹線道路を横切らない、ずっと歩き続けられるコースとなっていて、今回の春合宿でもこのコースを採用した。

【行程紹介】

一日目

17:50 大阪南港コスモフェリーターミナル集合

19:05 大阪発フェリーさんふらわあ乗船

【コースタイム 0:00】

二日目

06:55 別府国際観光港着

07:10 別府国際観光港出発～(0:15)～別府市スパビーチ(的ヶ浜公園)(海拔 0m 地点/鶴見岳一気登山スタート地点)～(5:00)～鶴見岳山頂～(昼食休憩)～(0:15)～鶴見山上駅＝(別府ロープウェイ乗車(15～20分間隔で運行))＝別府高原駅～「別府ロープウェイ」発＝(亀の井バス)＝「別府駅西口」着

~~~~自由散策時間~~~~

17:00 「別府駅前」集合

17:30 「別府駅前」発＝(亀の井バス)＝17:43「別府国際観光港」着

18:45 別府発フェリーさんふらわあ乗船

【コースタイム 5:30】

### 三日目

06:35 大阪南港着

下船が済み次第、一時集合し、その場で解散

【コースタイム 0:00】

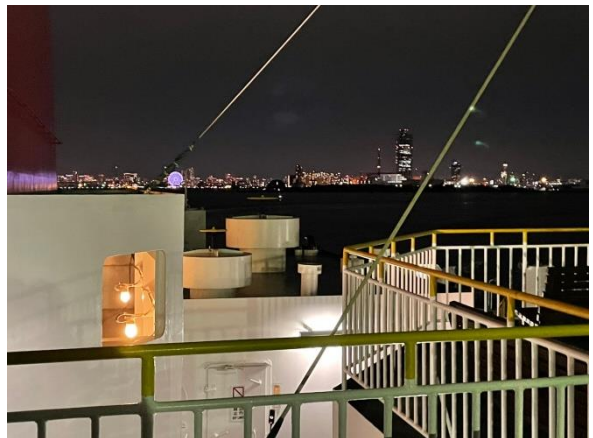
## 【紀行文】

こんにちは、のほほん副部長です。2020年、21年と新型コロナの影響で中止になっていた春合宿。ついに今年の3月21日をもって、灘校に9時20分始業をもたらしていたヒーロー、「まん防」ことまん延防止等重点措置が解除され、3月末の春合宿に間に合いました。そんな2022年の春合宿はフェリーさんふらわあに乗り九州へ。2泊とも瀬戸内海の穏やかな波に揺られて過ごすという行程ゆえ、今回のぼった鶴見岳のある湯の町別府に滞在するのはたった半日と、ほぼ日帰り感覚の気楽な合宿となりました。てなことで3日も文責は僕ですが、どうか最後までお付き合いください。

さあ、一日目です。

副部長の朝は早い。とか言ってみたかったんですが、残念、今回は夕方の17時に大阪南港集合。夕方ですよ。さすがに遅刻するやつなんて、いるはずがなかったんですが、ちゃんと一人いました。僕ですね。別府行きフェリーはこちらと書かれたトラック用の看板に騙され、ザック担ぎながら無駄に2kmくらい疾走。からの汗だくで遅刻。恥ずかしい。まあ看板は言い訳で、そもそも予定の電車より乗るのが二本遅れたのが原因なんです。散髪屋のおっちゃんと長話するときは時計をしっかり確認したほうがいいです。そんなことがあります。出航の一時間ほど前には、無事部員全員さんふらわあ「こぼると」に乗り込みました。いざ乗ってみると意外にオシャレ。往復一万円ちょっととは思えません。客室に着き二段ベットに荷物を置くと、早速おながぐうとなったのでレストランへ。船内のレストランのバイキングは別料金でそれなりにするんですが、すごく美味しくて、たらふく食べました。これは予想外。僕はホテルのバイキングとかあまり満足できない人なんですが、麻婆豆腐とか家庭料理系のおかずもあってご飯が進みました。

そんな美味しい食事ですべてが胃袋を満たす中、船はボイラーを蒸気で満たしいざ出航。まあ汽船じゃなくてディーゼルなのは置いて。途中ライトアップされた明石海峡大橋をくぐって綺麗でした、と。そんな一見順調に思えた船の旅だったんですが、ひとつだけ唯一にしては大きすぎる問題がありました。部屋が暑い。ただただ暑い。





僕はYouTubeみてたら23時くらいに寝落ちできたんですが、0時過ぎても寝られなかったり、汗だくになって何回も起きた人もいたみたいです。船だから仕方ないんですかねー。

ここで2日目へ。

朝起きて、船内で朝風呂、朝食を済ませるともう外は明るく、デッキからは別府の町並みが見えてきました。当然ですが湯煙って早朝から上がってるんですよね。あちこちに見えて綺麗でした。そんなこと言ったら船は別府港に到着。別府の市街地を歩きながらまず目指すのは、鶴見岳一気登山道の始点。海拔0メートル地点です。ところで、僕も紀行文を書いているときに知ったんですが・・・この鶴見岳一気登山道、やけに名前がカッコいいし、道標も多くて、“コース”がわかりやすかったんですよね。ん、“コース”？？いやそうなんです。毎年開催されている「べっぶ鶴見岳一気登山大会」の”コース”なんです。毎年3000人程度が集まりつづけ、もう30年くらい続いている



歴史ある大会だそうです。山頂まで駆け上がるコースの歴代最速タイムを見てみると1時間11分50秒。はやっ。まあ、僕たちは大きなザックに雨具やらお風呂用の着替えやらを詰め込んでるので、3~4時間かけてのんびり登ります。話を戻して、目指す



は海拔0メートル地点のはずだったんですが、どうやら寄ってないですね。コースタイムの関係なのかな。砂浜で集合写真撮りたかった。まあ一気登山道の始点もほぼ海拔0メートルなので、良しとして。そこからは境川に沿って桜が満開の河川敷をのんびり歩き、お爺ちゃんが道あっちだよと教えてくれたりしながら、別府の住宅街の中を進んでいきました。舗装された道を一時間ほど歩くと山道に。山道はなんせ一気登山なので、ところどころきつい登りはあっても、六甲全山縦走みたいに、何個も山を上り下りしなければいけないわけでもなく、みんなで

ワイワイ話しながら山頂まで一気に駆け上がりました。山頂につくと周りに高い山がほぼなく、その上快晴だったのでとても開放感があって良かったです。地元の高校らしき女バレの集団も遊びに来てました。みんな仲良さそうでほっこり。そして休憩が終わると、今回の行程の楽ちんポイントの極めつけ、ロープウェイで一気の下山しました。まだ2時過ぎです。船は18時なので、そこからは別府観光。みんなで温泉に入り、別府名物とり天を食し、お土産を買ったりしていたらあっという間に3時間が過ぎました。日が落ちてくるころにはまた皆、行きもお世話になったさんふらわあ「こぼろ」とに乗り込みました。今度は大阪を目指して。



3日目、最終日です。

2日目の夜はみんなでトランプしたり何だかんだしてるうちに僕がぶっちぎりで最初に寝たみたいですね。一度も起きることなく汗もかかず、快適すぎる7時間睡眠。隣の部屋が(先輩たちが)うるさくて起きました。角の部屋じゃなかったら他の人に大迷惑だったのでは…と思いつつ。朝食をとってデッキに出ると素晴らしい日の出を拝むことができました。そうこうしてるうちに大阪南港に到着。まだ普段起きているか怪しい7時ごろ。久しぶりにスーツばかりの満員電車に乗りながら帰宅しました。こういう気軽な合宿も悪くないですね。まあ賛否両論はあるでしょうが。皆さん春合宿お疲れさまでした。



## あとがき

部誌を読んでもいただき、ありがとうございました。少しでもワングルの活動、山の魅力、山に興味を持っていただけたら幸いです。

紀行文ではワングルならではのゆるい雰囲気や部員たちの山を愛する気持ちを伝えられたかと思います。ですが、この部誌だけでは山の魅力は伝えきることはできません。この部誌が、読んで下さった皆さんのワンダーフォーゲルを始める一つのきっかけになれば幸いです。最後になりましたが、ワングルのブースにてこの部誌を手に取り、最後まで読んでくださり、本当にありがとうございました。今後とも灘校ワンダーフォーゲル部をどうぞよろしくお願いいたします。



Twitter での情報発信も随時行っております。是非ご覧ください。

Twitter : @nwvk\_official

また、部誌に関して何かございましたら、

[nwvkofficial@gmail.com](mailto:nwvkofficial@gmail.com)

までメールでご連絡下さい。

## 2022 年度 ワンダーフォーゲル部部誌

総編集：村中 達

Special thanks to:

全ワンダーフォーゲル部員

2022年4月26日 発行